

小松の観光名所の一つであり、地元の人たちにも親しまれている栗津温泉。泰澄大師により開かれてから今年で1300年を迎えました。この特集では、メモリアルイベントや栗津温泉の見どころほか、地域の皆さんの活動などを紹介します。

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8076 まちデザイン課 ☎24・8100

開湯1300年祭 おつしよべ祭り

8月23日(木)～25日(土) メイン会場 (仮称)交流広場



バル あわづ温泉BAR
各種飲み物、おつまみ
を販売。
24日(金)、25日(土)
いずれも15時～19時

- 23日(木)**
10時～ 栗津街なか線完成を祝う会
開湯1300年祝賀会
13時～ おもしろ市場
13時30分～ おつしよべ祭り祈願祭(大王寺)
17時～ 子供ふれ太鼓(温泉街)
18時30分～ 太鼓の祭典、YOSAKOIソーラン
19時～ フラ&タヒチアンダンス
- 24日(金)**
10時～ フリーマーケット
14時～ 子供獅子
20時～ 正調おつしよべ踊り大会
- 25日(土)**
13時～ お化け屋敷(本廣寺)
17時～ スモールワールド
20時～ おつしよべ踊り大会
- ☎ 栗津温泉観光協会 ☎65・1834

24時間テレビも
やって来る!

開湯1300年 栗津温泉

特集

スモールワールド2018

とき 8月25日(土)17時～19時30分
ところ (仮称)交流広場
○ワールドステージ ブラジルのサンバをはじめとする世界各国のパフォーマン
スを楽しもう
○世界の食ブース(22時まで) インド、
ネパール、ブラジル、韓国…ほかにも多く
の国の食べ物が大集合!
○ホストタウンPRブース 東京2020
オリパラに向けて、小松市と石川県のホス
トタウン各国を紹介
そのほか 臨時駐車場をゆのくにの森第
2駐車場に開設します。



観光文化課 ☎24・8076

祈り・結び・いやしを テーマにした交流広場を整備中

2019年度中の完成に向けて、現在整備を行っている(仮称)栗津温泉
交流広場。温泉街の中心に位置し、大王寺、白山神社、祈りの小路と温泉街
をつなぎます。舞台を備えた広場でイベントを開催し、にぎわいを創出す
るほか、緑や花、光で彩
り、壁面に観音下石や
滝ヶ原石を使うなど、見
て楽しめる演出を取り入
れています。

また、1300年の節
目に合わせ、栗津街なか
線が完成します。石畳の
道路は、そぞろ歩きを楽
しめる温泉街の風情を生
み出しています。

色とりどりの 七夕飾りで祝い

旅館や商店、事業所など、まち
なかを七夕飾りで彩り、記念の年
を祝います。



大王寺イベント

朝ヨガと瞑想の体験。
とき 8月24日(金)、25日(土)い
ずれも6時～8時
参加費 1300円
☎ 大王寺(北原) ☎090・77
44・6477



地元の石材を使用



▶交流広場イメージ。交流フロアのテーマは、パワースポット。古九
谷の模様をモチーフにしたデザインになります。

栗津温泉 散策MAP

温泉の守り本尊 師如来を安置して建てられた大王寺。開湯の祖泰澄大師をまつています。

白山神社

祈りの小径

おっしょべ公園

子供たちが遊べる広場。周辺には、おっしょべ滝や幸せの鐘といった恋人の聖地にまつわるスポットがあります。

黄門杉

樹齢約400年の「黄門杉」。加賀百万石の名君・前田利常公が那谷寺参拝のときに植えたといわれています。その昔、大火を防いだことが、あるとも言われ、御神木として大切にされています。

おっしょべ橋

あわづグランドホテル

建物は山かげの御殿湯をイメージ。立ち寄り湯として地元の皆さんにも人気です。入湯料：大人420円、小学生130円、幼児50円

栗津温泉

飲食店などが並ぶ栗津街なか線は、石畳の道路や無電柱化などで、趣のある通りになりました。

国登録有形文化財。伝統的な芝居小屋のたたずまいを残しています。

栗津温泉

1300年記念号 観光周遊バス 土・日・祝日、週末 運行中 総湯発：10時、11時、13時、14時、15時

栗津温泉とつながる里山。

エリア全体で歴史と自然を感じよう。

開湯1300年で盛り上がる栗津温泉をはじめ、歴史物語と豊かな自然が魅力の南部里山エリアに出掛けてみませんか。

白山信仰の古刹。奇岩遊仙境や二尊石など自然の雄大さを感ぜさせる景色を、松尾芭蕉が「石山の石より白し秋の風」と詠んでいます。春は桜、秋は紅葉と四季折々の景観は海外からも高い評価を受けています。

那谷寺

拝観時間 3～11月…8時30分～16時45分 12～2月…8時45分～16時30分
拝観料 中学生以上600円、小学生300円

滝ヶ原町

8月11日のイベント
鞍掛山早朝登山のほか、滝ヶ原カフェではアコースティックライブ(9時～)、スペシャルメニューを用意。

栗津温泉

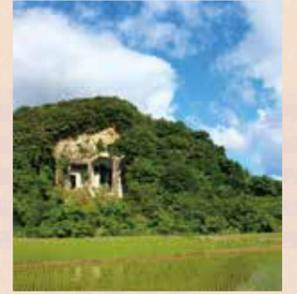
里山の豊かな自然を体験できるスポット。トンボの楽園など、大学の研究、児童の環境教育といった学びのフィールドとして活用されています。石切り場やアーチ型石橋など石文化が集まり、事前に予約すれば、地元ガイドが案内してくれます。

日用町

栗津温泉から約3kmの日用町は、全国農村景観百選にも選ばれています。美しい苔をはじめ、日用杉、日用川、神社、古民家などが織りなす里山の世界観は、国内外から注目を集めています。

8月11日～13日の19時～21時、ライトアップ「照苔の夕べ」を実施。9月15日にはジャズコンサートを開催します。

苔の里 ☎090・7083・6969



泰澄大師像



1300年の歴史が息づく 泰澄大師ゆかりの地域

泰澄は682年、越前(福井県)に生まれた修験者で、717年の36歳のとき、2人の弟子とともに白山を開山しました。また、同年、白山信仰の寺・那谷寺(当時は岩屋寺)を開創しました。

南部の里山エリアには、泰澄ゆかりの名所、霊峰白山の恵み、豊かな自然石文化など、人々をひきつける地域資源が多くあります。

栗津温泉誕生にまつわる 不思議な伝説

白山開山翌年の718年、泰澄大師により栗津温泉が開湯されたといわれています。

この温泉の誕生には不思議な言い伝えがあります。

泰澄大師が白山で修行をしていると、夢に白山大権現が現れ、「この白山のふもとから5、6里(1里は約4キロ)ほど行った所に栗津という村がある。その村には温泉が自然に湧き出ており、いろいろな病気を治す力を持っている。村人と力を合わせて温泉を掘り出し、いつまでも病気の苦しみから人々を救ってあげなさい」と言われたそうです。そのお告げどおりに掘ったところ、温泉が湧き出てきたと伝えられています。

地域の力で、まちもひととも元気に

粟津温泉のにぎわい創出やブランド力アップをめざして、地域の皆さんが、新たな事業の展開や伝統文化の継承など、人材の育成や担い手づくりに取り組んでいます。

粟津っ子を育てる連絡協議会

受け継がれてきた「おっしょべ」を次代を担う子供たちへ

ふるさとの伝統芸能を継承

粟津温泉に伝わる民謡「おっしょべ節」。毎年8月下旬に開催のおっしょべ祭りのほか、地元粟津小学校の運動会で児童が踊りを披露するなど、地域に根付いています。

このおっしょべ節を次世代に伝えていこうと、開湯1300年をきっかけに、粟津校下公民館と学校、民謡山本会が一体となった取り組みがスタートしました。



子供たちの目は真剣そのもの。楽譜をじっと見つめ、唄や三味線などに合わせて軽快なリズムで太鼓を叩きまします。その音を感じながら、背筋を伸ばし、指先まで集中させて踊ります。練習を重ねることに上手になり、その表情には自信が伺えます。

粟津小学校では、地元の人材などを活用し、地域と連携した土曜学習を行っています。この6月から、ふるさとクラブに所属する小学4〜6年生の18人の児童が、踊り、唄、横笛、太鼓の中から、各自が学びたいものを選び、おっしょべ節の練習に励んでいます。

練習の積み重ねが大きな自信に



「前回できなかったことが今日はできるようになっていて、子供たちの覚えの早さ、成長ぶりに驚きます。地域や学校の協力でこのような機会をいた

ふるさとクラブと山本会の皆さん



地域おこし協力隊

地域おこしは「ひとつづくり」から互いに成長できるコミュニティをつくりたい

学びと小商いでまちを変える

南部里山エリアの活性化に挑む小松市地域おこし協力隊の2人。魅力ある温泉街づくりに向けて、新たな取り組みを始めています。

一つは、薬草やノルディックスポーツなどヘルスケアの商機を集めた「複業」施設の立ち上げです。「様々な能力や経験のあるローカルビジネスを行う人が集い、それぞれを伸ばしていけるコミュニティをつくりたい」という内木洋一さん。今までなかった価値を生み出し、地元の人や観光客がふらつと立ち寄る交流拠点づくりを目指し



▲農業や手仕事の可能性を追求する内木さんと羽田野さん。地元食材や薬草を使ったカフェをオープンするなど、南部里山エリアの地域資源を広く発信しています。

ています。

もう一つは、起業塾の開講です。手に職を持ち自分で収入を得ていく力を身に付けるため、経理などの実務のほか心構えなどを学びます。「まちを変えるのは人であり、地域活性化には、まずひとつづくりが大切」という羽田野真寛さん。起業をまちの原動力にする、学びの環境づくりを進めています。

古き良きものが息づくまち

里山地域のハブとなる場所に位置する粟津温泉に、にぎわいが生まれれば、エリア全体の活性化にもつながります。「粟津には、地元の人がある価値に気付いていない古き良きものがある。丁寧に磨き、次代に残してほしい」と2人は言います。

資源を活用し、自由な発想で新しいものを生み出す事業を、地域の皆さんと共に進める新たな挑戦で、粟津温泉や里山エリアが変わるうとしていきます。

粟津のまちづくりを考える会

若いパワーを集結して、生まれ育ってきたまちににぎわいを創出

そぞろ歩きを 楽しめる温泉街に

会員の宮本真也さんは、「若い人が戻り、ここで商売してくれる人が増えてほしい」と願い、活動に参加しています。山下好弘さんは、「通りもきれいなだったので、面白い店が増えればもつとにぎやかになると思っ」とそぞろ歩きを楽しめる温泉街にしようと取り組みます。

生まれ育ったまちを盛り上げ、粟津の歴史を次代へ引き継いでいくために、皆さんの活動は続きます。



▶毎年開催している「除夜の鐘&初鐘」は、観光客や住民と一緒に年明けを祝う、思い出に残るイベントとして定着しています。

強みは若さと行動力

発足から5年目となる「粟津のまちづくりを考える会」。粟津校下の20〜50代の23人が定期的に活動しています。会を立ち上げた時から、2カ月に1回、町内のごみ拾いや泰澄大師像の周辺の草刈りなどを続けているほか、開湯1300年をきっかけに始まった、まちを七夕飾りで彩る活動をサポートするなど、町内の皆さんと協力しながら、粟津地域のイメージアップに努めています。

また、ライトアップした寺で除夜の鐘を突く体験や音楽ライブなどを行う年越しイベントを、企画・運営しています。



▲おっしょべ祭りでは、フリーマーケットを担当。出店者の募集や当日の運営などを行います。写真はポスターの仕上がりを確認する山下さん(左)と宮本さん。